

ハスの化石と明石海峡大橋

半田久美子・主任研究員



ハス属の葉の化石が「橋の科学館」にあると聞いて見に行ってきました。明石海峡大橋にまつわる科学技術を紹介する科学館で、神戸側の橋の基礎がある県立舞子公園にあります。なぜ科学館に化石が展示されているのでしょうか。

化石は入館してすぐのところにあります。大きさはおよそ20センチで、太い葉脈は放射状、葉の縁が一部残っており、現在のハスの葉とよく似ています。ラベルには「垂水側の基礎工事で地下56層の神戸層群から採取」と書いてあります。

明石海峡大橋を建設する

時に、つり橋のケーブルの端を固定する固い地盤を露出させるために、比較的固い神戸層群まで掘り下げた時に発見されたようです。工事の時に化石が産出することはあるのですが、採集地点をきちんと記録して保存されることはまれで、これはとても貴重な資料です。

葉の化石が展示されていたのは明石海峡の地質コー

ナーで、橋を支える地盤の調査から明らかになった断層の位置や地層の深度を明示し、代表的な岩石と産出した化石を展示していたのです。

ハス属の化石はとても珍しく、神戸層群では神戸市北区の鈴蘭台で採集されたものと、この舞子の2例だ

けです。神戸層群では葉の化石はたくさん採集されており、ひとはくに1万点もの標本が寄贈されているのに、ハス属の化石がほとんど見つからないのはふ

ひとはく
研究員
だより

しぎです。

化石のついでに石を見ると、違いがあるようです。植物化石がよく採集される岩石は「凝灰岩」といい火山灰でできていますが、ハス属の化石の石はどちらも泥や細かい砂でできた「泥岩」や「砂岩」のようです。あまり見つからない原因はここにあるのでしょうか。

さて、橋の科学館の化石

展示は、このほかに「珪化木」と、サイの仲間であるアミノドン類の「歯化石」のレプリカがありました。アミノドン類の歯も神戸層群から産出しており、神戸側の主塔の海面下200層からボーリング調査で見つかったというのが驚きです。

神戸層群は淡路島北部から神戸市、三木市、小野市、加東市、三田市、宝塚市、西宮市にかけて分布しており、ひとはくに近い神戸市北区の赤松台や上津台でもアミノドン類が見つっています。三田市富士が丘からはサンダタンジュウやヒラキウス類の歯が産出しているのです。明石海峡の地下にもまだいろいろなほ乳類化石があるのかもしれない。

ハス属の葉の化石＝橋の科学館



平池公園のハスII加東市東古瀬